

第66章 伊豆ヶ岳

2月6日(土)

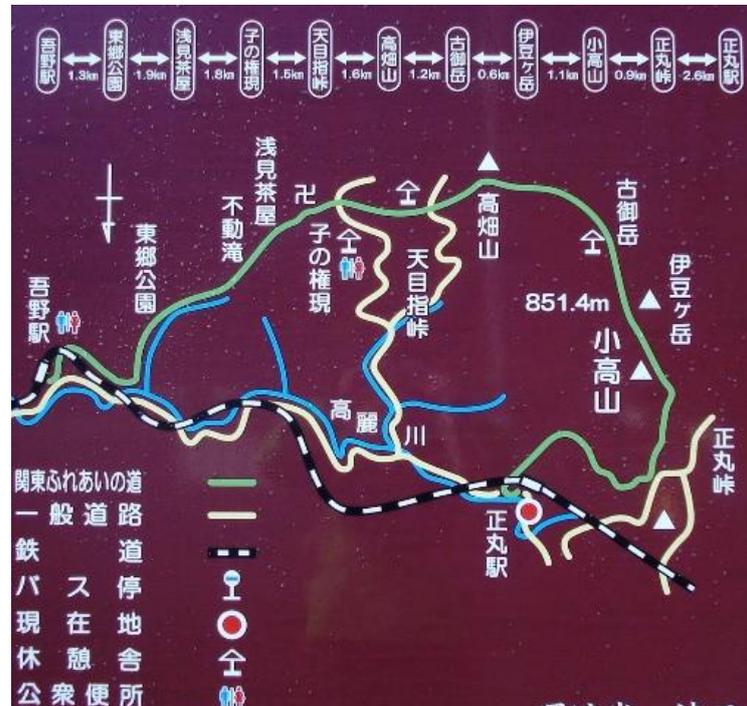
冷たい雨の土曜日。明日の快晴予報に思いをはせて、日帰り登山計画をする。ふと以前姉が「秩父にある伊豆ヶ岳と言う山が駅から行けるからいいよ」と教えてくれたことを思い出す。夕方姉に連絡してみる。「急だけど明日、伊豆ヶ岳に行こうと思うが一緒に行く?」「行く!」ということで姉と登山口となる。西武秩父線の正丸駅に9時に待ち合わせを決める。

2月7日(日) 7時29分発

武蔵小金井駅を出発。国分寺駅で乗り換え東村山駅へ。更に西武新宿線に乗り換え所沢まで行き再びそこで西武秩父線に乗り換える。西武秩父線に乗車するのは人生初である。ちょっとした冒険気分である。長旅になると思い、車中の読書を楽しもうと本を持参するが、乗り過ごしてしまうのではないかと心配で本の中身が頭に入らない。あきらめて景色を楽しむことにする。

9時00分 正丸駅到着

駅には20名程度の登山者が下車する。駅横に付いているお手洗いを使わせていただく。靴紐を締め直し登山スタート。



9時08分 正丸駅出発

急な階段を降り右手へ進む。登山口までしばらくアスファルトの道が続く。途中安産地蔵尊を通り過ぎる。正丸峠分岐地点に到着。正丸峠を經由して長岩峠を通過するか、そのまま長岩峠に進むかの分岐点だ。今回の行程はあまり長いコースではないので、正丸峠を經由して伊豆ヶ岳向かう事にする。しばらくして林道に入る。なだらかな山道を進むが正丸峠の直前になると突然急な階段が現れる。前方に歩いていた登山者も進むスピードが落ちる。よくこのような急斜面に階段を作ったものだと感心する。

10時00分

登りきると奥村茶屋というお茶屋さんが出現。ここが正丸峠である。

<ポイント1>

奥村茶屋のホームページをのぞくとフォトギャラリーに夜景の写真を発見する。夜景もまたステキである。季節や時間帯を改めまた訪れたい峠。食事はジンギスカンが有名らしい。

ホームページ:<http://www.geocities.jp/dionbushin/okumura.html>

峠に着いた姉が「ちょっと休憩させて…」と、息も少々切れている。水飲み休憩とする。他の登山者は車道の方に向かい休憩する様子である。数分休憩し次のポイントとなる小高山方面へ向かう。正丸峠から尾根伝いの登山道となり、落葉した木々の合間から遠くの景色が楽しめる。



(奥村茶屋までの登り)



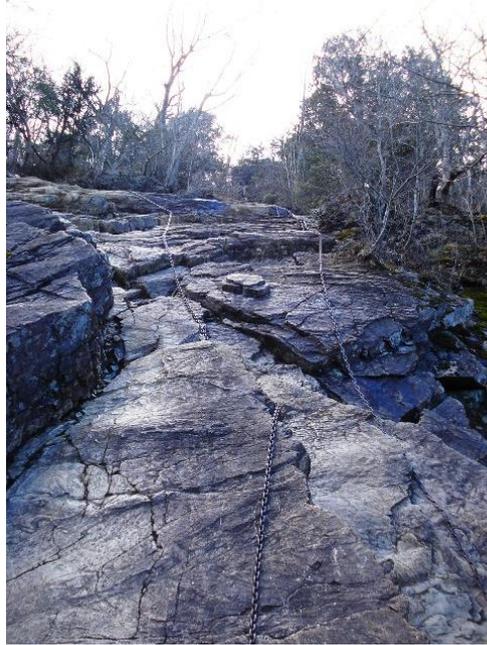
(小高山からの景色)

10時20分 小高山(標高720m)到着
展望が開け山々が良く見える。

10時23分 長岩峠に到着
下山コースや武川岳(ホウキ平)伊豆ヶ岳といくつかの道に分かれる分岐点である。
道標があるので間違える事は少ないかと思う。さらに進むと階段が現れ、登りつめると五輪山に到着。

ここから少し歩くと直ぐに男坂、女坂という分岐点にでる。鎖場の男坂がおもしろそうなので、姉に「男坂行く？」と聞くと「足と手の指示をしてくれるなら行く」との回答。「落石注意」の看板がある男坂コースは

タイミングが良い事に登っている登山者はいない。自分達も落石させないよう、気を付けなければならない。腕の力に頼る箇所もある。明日はまた筋肉痛になってしまうのであろうか…。「どっちいけばいいの～？」と聞きながらも姉も長年登山の経験者なので、自分で歩きやすい道を選択して進んで行く。登りつめると頂上となる。



(男坂からの景色)

(伊豆ヶ岳山頂から、伊豆は見えず)

11時00分 伊豆ヶ岳(標高 850.9m)頂上到着

<ポイント2>

伊豆ヶ岳の山名は、突峰状の山容によるアイヌ語の「イズ」から出たものと言われている。地元では快晴の日、山頂に登ると遠く伊豆まで見えるからという「伊豆ヶ岳説」や、柚子の木が多くあったからという「柚子ヶ岳説」、また昔麓の湯の沢で温泉が湧き出ており、その前の山だからという「湯津ヶ岳説」等色々な話が伝えられている。(環境庁・埼玉県の掲示物参照)

既にお昼を楽しんでいる登山者数十人。山頂の標識がある周辺は多くの登山者が休憩していたので、少し離れた場所で我々も昼食を取る事に。しかし…肌寒い。太陽が顔を出しているが風が冷たい。少しでも

風よげが出来る場所を探すが、山頂は風よげになる場所が少ない。早い昼ご飯を取る。バーナーを持ってきていたので、それぞれ持参したスープとお味噌汁で温まる…はずであったが、姉は寒い寒いを連呼しながらお昼ご飯を食べていた。結構暖かそうなウエアーを来ている様に見えたが…汗が引いたせいであろうか？寒さに耐えながら昼食を終える。

11時50分 山頂を出発

来た道とは逆のコースに降りる。子ノ権現という寺を目指して進む。しばらく下りのコース。ロープが設置されている。皆一列になって慎重に降りている。その後下ったかと思ったらまた登る…下山に選んだ伊豆ヶ岳山頂から吾野駅コースは、アップダウンが続くコースとなる。

12時 8分 古御岳(標高 830m)

12時 36分 高畑山(標高 695m)

経由する中ノ沢ノ頭は巻き道もあるが、折角なので巻き道を行かず通る事に。特にこれと言って景色がいいわけではなく、早々に通過。

13時 15分 天目指峠(標高 476m)到着

車道と合流する。

ロードバイクの方の姿も数名いる。車道を横切りすぐ目の前の林道に入る。ここから再び愛宕山まで登りとなる。

愛宕山には祠が祀られている。通過し暫く歩くと開けた車道にまた出る。車道をしばらく行くと右手遠くに白い物が見える。何であろうかと姉と話していると大きな両手のモニュメント。何か意味があるのであろう。



(高畑山に向かう途中、木々の色が綺麗)

13時 55分 子ノ権現天龍寺(標高 640m)到着



(江戸時代末期に建てられた本坊)



(鉄の草鞋、重さ2トン、日本一)

<ポイント3>

子ノ権現縁起に「魔火のため腰と足を傷め悩めることあり。故に腰より下を病める者、一心に祈らばその

験を得せしめん。」とあるように、天龍寺は古より足腰守護の神仏として広く信仰を集めている。鉄のワラジを始め夫婦下駄・庫裡廊下梁に掲げた額等信仰の証となるものが多く残されている。

一般に足腰の調子が良くない方を始め、古くは人力車、荷車関係の方、農林漁業に従事してられる方々や力士、陸上競技・野球・サッカー・バスケット・スポーツサイクルなどのスポーツ関係の方々、トレイルラン・ハイキング愛好者が年間を通じてお参りされる。

人間の足を転じて自動車や自転車・バイクの無事故交通安全を祈願される方々も多い。(子ノ権現天竜寺ホームページ参照)

姉が今年まだ初詣をしていないため、調度良いとお守りを購入する。かわいい草鞋形のお守りである。祖母が膝を痛めていたので祖母の分も購入する。その後見晴し処まで足を運ぶ。遠くにうっすらスカイツリーが見える。鐘を鳴らし参拝を楽しみ、子ノ権現を後にする。

ここからはひたすら下りとなる。車道に出てしばらくすると浅見茶屋といううどんが有名なお茶屋を通り過ぎる。最後は線路に沿って歩くのだが、電車の時間を調べたところ 10 分後に上り電車があることがわかる。本数が少ないので、出来れば乗車したいということで姉と二人でランニングにて駅に向かう。

15 時 35 分 吾野駅到着

15 時 37 分 吾野駅出発

秩父の山は遠いと思っていたが、奥多摩と同じぐらいの時間でいける事が判明。

山梨の山に続き、秩父の山もこれから散策して行こう！今年の登山の楽しみがまた増えた。

9 時 08 分 正丸駅出発

10 時 00 分 奥村茶屋到着

11 時 00 分 伊豆ヶ岳山頂着

11 時 50 分 伊豆ヶ岳山頂発

13 時 55 分 子ノ権現天龍寺着

15 時 35 分 吾野駅着



(子ノ権現の見晴し処より)

文責:松田留美 同行者:姉